

# 調査の概要

## 1. 調査について

中高年パネル調査(暮らしと生活設計に関する調査)は、平成9年(1997年)を第1回調査とし、同一の回答者を2年ごとに10年間追跡して調査する方法で実施している。

現時点で、平成9年(97年)、平成11年(99年)、平成13年(2001年)の3時点の調査が終了しており、本号はこれら3回の回答結果に分析を加えたものである。

## 2. 調査対象について

調査対象は、昭和8年(1933年)から昭和22年(1947年)生まれの全国に住む男性を対象としている。調査開始時点の1997年に50～64歳だった方が対象である。

本調査では、調査地点を無作為に抽出し、地点内に居住する対象者から条件に該当する人を抽出するエリアサンプリング法によって対象者を抽出した。住民基本台帳からの無作為抽出方法は、無作為性を担保する方法としては適切であるが、住民基本台帳は民間事業者が閲覧することに制限がある地域も多いことから今回は、当該の方法を採用した。

調査対象地点は以下の通りである。各地点の抽出割合は、人口構成に準拠した。抽出割合は図表-2に示すとおりである。

図表-1 調査時点と調査対象の年齢

調査対象世代	1997年 (終了)	1999年 (終了)	2001年 (終了)	2003年 (予定)	2005年 (予定)
昭和8年～12年	60～64歳	62～66歳	64～68歳	66～70歳	68～72歳
昭和13年～17年	55～59歳	57～61歳	59～63歳	61～65歳	63～67歳
昭和18年～22年	50～54歳	52～56歳	54～58歳	56～60歳	58～62歳

図表-2 地域別の調査対象抽出率

	13大都市	人口10万 以上の都市	人口10万 未満の都市	町村(郡部)	合計
北海道ブロック	1.2	1.3	0.7	1.2	4.5
東北ブロック	0.7	2.2	1.8	2.8	7.5
東京ブロック	6.6	2.4	0.6	0.1	9.7
首都圏ブロック	4.4	8.6	2.6	1.8	17.4
関東ブロック		2.0	1.3	2.1	5.4
北陸ブロック		1.6	1.3	1.4	4.4
中京ブロック	1.8	3.2	1.8	2.0	8.8
中部ブロック		2.6	1.2	1.7	5.5
大阪ブロック	2.3	4.4	0.7	0.2	7.6
京神ブロック	2.3	2.2	1.1	1.0	6.4
近畿ブロック		1.2	0.7	1.1	3.0
中国ブロック	0.8	2.4	1.3	1.7	6.1
四国ブロック		1.2	0.8	1.3	3.3
北九州ブロック	1.7	1.3	1.5	1.9	6.3
南九州ブロック		1.5	1.0	1.7	4.3
合計	21.7	38.1	18.4	21.9	100.0

#### 地域ブロック

- ア) 北海道ブロック(北海道全域)
- イ) 東北ブロック(青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)
- ウ) 東京ブロック(東京都全域)
- エ) 東京を除く首都圏ブロック(千葉、埼玉、神奈川、茨城、各県の首都圏域)
- オ) 首都圏以外の関東ブロック(群馬、栃木、山梨、千葉、埼玉、神奈川、茨城、各県の首都圏域以外)
- カ) 北陸ブロック(新潟、富山、石川、福井)
- キ) 中京圏ブロック(愛知、岐阜、三重の中京圏)
- ク) 中京圏以外ブロック(静岡、長野、愛知、岐阜、三重の中京圏域を除く)
- ケ) 大阪ブロック(大阪府全域)
- コ) 大阪を除く京阪神ブロック(奈良、京都、兵庫の京阪神圏)
- サ) 京阪神以外ブロック(滋賀、和歌山、奈良、京都、兵庫の京阪神圏域以外)
- シ) 中国ブロック(鳥取、島根、岡山、広島、山口)
- ス) 四国ブロック(徳島、香川、高知、愛媛)
- セ) 北九州ブロック(福岡、長崎、佐賀、大分)
- ソ) 南九州ブロック(熊本、宮崎、鹿児島、沖縄)

なお、首都圏、中京圏、京阪神圏は次のように設定した。

- ア) 首都圏:旧東京都庁を中心とした半径50キロ圏
- イ) 中京圏:名古屋駅を中心とした半径40キロ圏
- ウ) 京阪神圏:大阪駅を中心とした半径40キロ圏と京都市全域

### 3. 調査項目について

調査項目については調査年度に係らず同じ質問を設定（ただし、99年時には97年調査項目を若干変更した）しており、主な調査項目は次のとおりである。詳細の調査項目は巻末の調査票（01年調査）を参照願いたい。

- 住まいについて
- 経験された出来事について
- 就学歴について
- 世帯について
- 配偶者(妻)について
- 子どもについて
- 両親・きょうだいについて
- 仕事について
- 定年について
- 配偶者の仕事について
- 家庭の収入や支出について
- 貯蓄・不動産・ローンについて
- 老後の生活設計について
- 家族関係について
- 人間関係について
- 健康生活意識・価値観等について

### 4. 調査の回収の状況について

配布・回収の方法は、訪問配布、訪問回収で実施した。

99年調査、01年調査については、前回調査（2年前）の回答者に対し調査票の配布を行った。回収数については次のとおりである。

- 97年調査            1,502 サンプル(4,000 アタック)
- 99年調査            1,034 サンプル
- 01年調査            910 サンプル

## 5. 調査研究体制について

本研究は、下記の先生方に調査実施、調査項目、分析など多方面にわたって研究指導を仰いだ。

- 正岡寛司 早稲田大学 文学部 教授 (研究主査)
- 藤見純子 大正大学 人間科学部 教授
- 樋口美雄 慶應義塾大学 商学部 教授
- 野沢慎司 明治学院大学 社会学部 教授
- 嶋崎尚子 早稲田大学 文学部 教授
- 西野理子 東洋大学 社会学部 講師